

(様式5)

調査報告書

外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成20年 7月16日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ～ 終了 14時 15分

訪問先事業所名 (都道府県)	高齢者グループホーム有馬館 (鹿児島県)
-------------------	---------------------------

評価調査員の氏名	氏 名 中村 朋美 氏 名 腰 高行
事業所側対応者	職 名 管理者 氏 名 鶴西 範子 ヒアリングを行った職員数 2名

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 7月20日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定4671100180号		
法人名	医療法人 椎原会		
事業所名	高齢者グループホーム有馬館		
所在地	鹿児島県南さつま市加世田地頭所570番地 (電話) 0993-53-3667		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年7月16日	評価確定日	平成20年8月3日

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 9月 17日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤7人、非常勤2人、常勤換算7.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	12,500 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(141,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 87歳	最低 76歳	最高 94歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人椎原会 有馬病院 中村歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホームは、市街地にあり、同一法人の病院や関連施設と医療福祉の一角を形成している。大型スーパーなどが近隣にあり、生活に便利な環境である。緊急時や日常的にも相談連携体制が整っており、入居者、家族が安心している。入居者、家族の意見や自己評価、外部評価、運営推進会議、同業者の意見など職員で検討して、サービスの向上に活かしている。職員は、管理栄養士のアドバイスを受けながら、栄養バランスに留意したおいしい食事づくりに、日々研鑽するなど、常に積極的に質の向上に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画の書式を変更し、入居者、家族の意向をくみ取り、より具体的な介護計画となっている。また、ホーム独自の避難訓練や案内板の設置など具体的に改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で取り組み、自己評価の過程で日々のケアの振り返りや認識を深めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議では、ホームの現況や課題、評価などの報告や話し合いを行い、そこでの意見を活かしている。また、災害時の協力依頼や地域住民との交流など、できることは即実践に取り組んで質の向上を図っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	来訪時や電話で、家族が意見を出しやすいよう取り組んでいる。また、意見箱の設置や運営推進会議などで意見や要望など表せる機会を設けている。出された意見要望は、運営へ反映するように取り組んでいる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	災害時における自治会の協力連携の体制はとられている。地域の行事や小学校の運動会など積極的に参加し、ボランティアや実習の受け入れをしている。ホーム外まわりの清掃や、ホームで縫った雑巾を小学校に寄贈するなど、地域の人々との交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が地域の一員、家族の一員として自信をもって生活が継続できることを目指し、地域密着型の理念を職員でつくりあげてある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り時に、理念の唱和を行うことなどで理念の共有を図っている。ミーティングなどを通し、ケアの振り返りのため理念を基に話し合いながら、日々理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事や小学校の運動会など積極的に参加している。ホーム外まわりの清掃や、小学校に雑巾を寄贈するなど地域の一員として地域の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組み、日々のケアの振り返りや再認識を図っている。外部評価後は、職員へ報告して話し合いを行い、評価を活かし改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの現況や課題、評価などの報告や話し合いを行っている。また、できることは即実践に取り組んで質の向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者とは、常に相談連携を図り、意見を交換し、ともに質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時や、随時の電話や手紙などで入居者の暮らしぶりや健康状態など報告している。また、定期的には有馬館便りを発行している。金銭管理は毎月1回の報告・確認を基本とし、個々に応じた報告をしている。職員異動も随時家族の来訪時や館便りなどで報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や電話にて、家族が意見を言えるよう配慮している。意見箱の設置や運営推進会議などで意見や要望など表せる機会を設け、意見を反映した支援に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、馴染みの関係づくりに配慮されている。職員が代わる場合は、入居者へ紹介や説明をするようにしている。また、新規の職員には、細かい内容の業務マニュアルを基に職員間の連携を図り、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修では、接遇や認知症などについて、外部研修では、個々の資格やレクレーションなどの研修を受ける機会が確保されている。また、報告や伝達研修もされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会で事例発表や課題点など出し合い、他のグループホームから出た意見を参考にするなどサービスの質の向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の面談で本人の状況を把握し、本人、家族の状況に応じ、何度かホームに来てもらうようにしている。そのうえでホームの雰囲気に徐々に馴染めるように、家族等と相談しながら利用できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、支援する立場だけでなく、味噌作りや梅干づくり、昔の話など入居者から学びながら、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や生活の中で、言動や表情などから思いや意向を把握するよう努めている。また、毎日の生活記録に細かく記録して、情報の共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	モニタリングや評価を活かし、アセスメントを行い、職員間で十分協議し、本人、家族、職員の意見を反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎の介護計画の見直しを基本としているが、毎月点検を行いモニタリングをしている。状況の変化時には随時現況に即した新たな介護計画を作成している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間の医療連携や本人、家族の意向や状況に応じて、通院支援や送迎、墓参りなど柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医での受診を支援している。病院受診後は、家族と職員間で状況や注意すべき点など情報を共有している。医療機関との連携を図りながら適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針を定め、入居時に説明している。状況に応じて、家族、医師、訪問看護と話し合いを行っている。これまでのところ、ターミナルケアの事例はない。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを損ねるような声かけや対応をしないよう常に確認、徹底を図り実践している。個人情報の取り扱いにも十分に留意がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが、本人の意向や状況に応じて、できる限り自由に生活できるよう柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、盛り付け、片付けなど入居者の意向や状況に応じて職員と共に行い、楽しく食事ができるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の意向や状況に応じて、無理強いすることなく一人ひとりゆっくり入浴ができるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの経験や趣味など活かし、味噌作りや日常の調理などの役割や体操、唄、しりとり、塗り絵、リハビリ、買い物、外出など楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望や状況に応じて、日常的に買い物やドライブ、散歩、リハビリなどへ外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	行動を制限せず安全に配慮しながら、鍵をかけない自由な生活を実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人の実施する避難訓練（年2回）に参加し、災害時の応援体制も整っている。自治会などへ協力の働きかけや、ホーム独自の避難訓練もされているが、夜間時対応の避難訓練や備蓄についてはこれからである。	○	夜間時対応の通報・避難訓練や備蓄についての検討や取り組みに期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録や水分摂取量の大きな把握（入居者の状況に応じて記録）がされ、声かけなどで水分が確保できるよう努め、入居者の希望や状況に応じた調理の工夫や栄養バランスなど十分に配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、馴染みある家庭的な雰囲気がある。季節の花を飾り、包丁の音や料理の匂いなど五感への刺激が働くように配慮されている。生活感、季節感など取り入れ居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、タンスやテーブル、家族の写真、色鉛筆などの趣味のものや装飾品などが持ち込まれ入居者が安心して過ごせるような配慮をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNET に公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式 1）を添付すること。